

## 日本国首相の卑屈・異常・稚拙外交の“文脈”（コンテキスト）

①5月27日、**オバマ米大統領の広島訪問**は実現したが、**原爆投下に対する謝罪はなかった**→安倍首相はオバマ大統領の広島訪問に際しての記者会見で、「**現在、ハワイを訪問する計画はない**」ときっぱり否定した

②安倍首相は外交政策の目玉として日ロ関係の改善を模索し、12月15日には**プーチン大統領の来日**が予定され、あわよくば北方領土返還への道筋をつけようとした→ところが、米オバマ政権は日ロ接近を面白く思っていなかった→そこで、安倍政権はオバマ大統領が悲願とする**TPP協定批准を援護射撃することで、日ロを黙認してもらうシナリオ**を描いた（安倍政権が他国に先駆けての**TPP批准を急いだのはそういう理由だ**）→さらに、このシナリオを**確実なものとするため**、安倍首相は米大統領選挙期間中に一方の候補者であるヒラリー・クリントン氏との会談に踏み切った（先進国の首脳が選挙のさなかに**一方の候補者だけに会うのは極めて異例**）。安倍首相（というか日本の外務省）はヒラリーの勝利を確信していた。この時点では、安倍首相にとってヒラリー氏は“次期大統領”そのものだった→ところが、選挙は**トランプ氏の勝利に終わり、当初のシナリオは崩れ去った**→安倍首相は選挙期間中にヒラリー氏と会談した**非礼を詫げるため**、急ぎトランプ氏との会談が11月17日にセットされた（先進国の首脳が、現職の大統領を差し置いて次期大統領と会談するのは“**異例**”というより“**異常**”）→だが、オバマ大統領が現職でいるうちの次期大統領への表敬訪問は、外交的に**著しく非礼な**こと。だから、どこの国もそんなことはしない→当然、アメリカの現政権は**激怒した**（とくにキャロライン・ケネディ駐日大使は日本政府に**強く抗議した**と伝えられる）→その結果、APEC首脳会議のために訪れたペルー・リマで11月20日に予定されていたオバマ大統領との**日米首脳会談が流れ、たった5分間の立ち話**になった。安倍首相は、この立ち話会談で「**真珠湾訪問**」というカードを切って、**なんとか許しを請うた**（ホワイトハウスがこれを“歓迎”するのは当然）→①であったにもかかわらず、わずか半年後に①の方針を転換した理由は、ニューヨークで行われた“異例”の「トランプ・安倍会談」に対する“**お詫び**”のためである。

③11月17日のトランプとの会談を終えてリマに乗り込んだ安倍首相は、会う人ごとに「私は数日前に、ニューヨークでトランプとじっくり語り合ったんだけどね」と**自慢げに吹聴**していたという。ところが、安倍首相が現地での記者会見で「TPPは米国抜きでは意味がない」と言い切った**わずか18分後**に、トランプ氏がビデオメッセージを公開し、「わが国に災厄をもたらす恐れがあるTPPからの離脱の意思を通告する」と宣言する。これを聞いた**安倍首相の顔は引きつり、言葉も出なかった**、という。月刊誌「選択」（12月号）は〈それは政権の座に返り咲いてから約四年、安倍政権が掲げる「地球儀俯瞰外交」の大きな柱が崩れ落ちた瞬間でもあった〉と書いた。だが、こうした事実報道や分析・解説が読めるのは、雑誌ばかりだ。新聞やテレビではほとんど見られない。15日からのプーチン大統領来日、月末の真珠湾訪問と、また「礼賛一色」に染まるだろ。永田町では早くも「真珠湾解散」などという声すら上がり始めているようだ。6日配信の日本経済新聞電子版は、〈1月解散風再び 真珠湾訪問、支持率向上の思惑〉というタイトルで、自民党幹部が「真珠湾訪問で支持率も上がるだろう。やるなら1月解散だ」と語ったと伝えている。

～この文書は、「安倍首相が真珠湾訪問をどうしてもしたかった本当の理由」（↓下記URLをクリック）

を参考に記したものです。～

<http://bylines.news.yahoo.co.jp/yamaguchikazuomi/20161208-00065258/>

<この文書は、「雑感」（↓下記URLをクリック）に記載されているものです。>

<http://shiminha.cocolog-nifty.com/shiminha/10/index.html>